

三次看護専門学校 授業要項

科 目		生活行動から見た体のしくみ		担当講師名	専任教員
学 科 名	学 年	ｸﾗｽ	単位(時間数)	授業の種類	開 始 時 期
第二看護学科	1		1 (15)	講義・演習	令和8年度前期
科目目標・単元目標 解剖生理学の知識を基に、人間の生活行動の体のしくみを理解する考え方を身につける。					
授業概要 人体の構造と機能は、看護が支援する日常生活行動を理解すると同時に生活行動の支援や病態理解につながる知識であり看護の土台となる知識である。准看護師教育での既修得科目である解剖生理学の知識を活用し、本科目を通して生活行動との関連だけでなく日常生活行動の支援や病気のつながりにおいて知識をどのように活用するかを学習していく。 学習方法は1回目は事前課題をもとに小テスト講義を行い、テキストと自分のワークシートをもとに各自理解するまで学習する。2回目は1回目の講義内容、ワークシートをもとに事例を用いて、日常生活行動が障害された際のからだの変化を説明する。事例を用いての学習では、からだの仕組みを自分なりの言葉で理解し、分かりやすく表現できるようになるためにTBL (Team Based Learning) を行う。					
回数	時間数	内 容		予 習	
1	2	1 生活行動と解剖生理のつながり 2 科目の概要と進め方 ＊「息をする」ワークシートの配布		＜予習＞ シラバスを読んでくる。 ＜復習＞ 授業内容について振り返る。特に科目の概要と進め方から自身の学習計画を立てる。 ＜持参物＞学生便覧、シラバス	
2	2	日常生活行動 息をする 1 ＊個人テスト 「息をする」ワークシートの解説 「息をする」のテーマを伝達		＜予習＞ 第6章「息をする」の章を熟読する。 ワークシートの使い方を理解し、自分の「息をする」のワークシートを作成する。 ＜復習＞ 授業内容を振り返る。特にワークシートに記載した内容と本とを合わせて振り返る。	
3	2	日常生活行動 息をする 2 「息をする」の仕組みをテーマに沿って理解する グループワーク 発表資料・原稿作成 (パワーポイントで作成)		＜予習＞ 「息をする 1」の振り返り 「息をする」の仕組みを理解するための自己学習を行い、調べたことを資料としてまとめる。 ＜復習＞ グループで理解したことを、改めてテキストやワークシートに戻り確認する。	
4	2	日常生活行動 息をする 3 グループ発表 ＊「食べる」ワークシートの配布		＜予習＞ 「息をする 2」の振り返り グループで検討したことを他グループに分かりやすく説明するために必要な視点を整理する。発表資料・発表原稿の確認。 発表資料・原稿を確認し、他グループに伝わるよう準備する。 ＜復習＞ 発表内容の振り返り	
5	2	日常生活行動 食べる 1 ＊個人テスト 「食べる」ワークシートの解説 「食べる」のテーマを伝達する		＜予習＞ 第5章「食べる」の章を熟読する。 「食べる」のワークシートを作成する。 ＜復習＞ 授業内容を振り返る。特にワークシートに記載した内容と本とを合わせて振り返る。	
6	2	日常生活行動 食べる 2 「食べる」の仕組みをテーマに沿って理解する グループワーク 発表資料・原稿作成 (パワーポイントで作成)		＜予習＞ 「食べる 1」の振り返り 「食べる」の仕組みを理解するための自己学習を行い、調べたことを資料としてまとめる。 ＜復習＞ グループで理解したことを、改めてテキストやワークシートに戻り確認する。	
7	2	日常生活行動 食べる 3 グループ発表		＜予習＞ 「食べる 2」の振り返り グループで検討したことを他グループに分かりやすく説明するために必要な視点を整理する。発表資料・発表原稿の作成。 発表資料・原稿を確認し、他グループに伝わるよう準備する。 ＜復習＞ 発表内容の振り返り	
8	1	確認テスト まとめ		＜予習＞ 「息をする」「食べる」を改めて振り返ってくる。 ＜復習＞ 確認テストの振り返りを、テキストをもとに行い、知識を確実にしておく。	
テキスト・参考書 ○専門基礎分野 解剖生理学 ○看護形態機能学 生活行動からみるからだ第4版					
成績評価の方法 ☑2・6回目小テスト：20点（個人テスト10点/回） ☑演習の取り組み（ループリック）・ワークシート：60点 ☑8回目確認テスト：20点					

※1回「2」は、90分(2時間)です。

三次看護専門学校 授業要項

科 目		生化学			担当講師名	松崎 秀紀	
学 科 名		学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	開 始 時 期	
第二看護学科		1		1(30)	講義・実験	令和8年度後期	
科目目標・単元目標 私たちの身体は物質から成り立っており、全ての生命現象は無数の化学反応の複合したものであることから、様々な生命現象の化学的理解により、臨床において科学的行動をとることができる知識を獲得することを目標とする。							
授業概要 生体の構造とその構成成分について説明し、次にそれら生体分子の生体内における機能とその代謝について学んでいく。また生化学実験により、生体分子の化学的理解の具体化を図る。							
回数	時間数	内 容			回数	時間数	内 容
1	2	生化学とは 生物化学：生体構成成分と細胞構造			11	2	遺伝情報とその発現
2	2	生体成分の化学1：アミノ酸・タンパク質の化学			12	2	ビタミンとホルモン
3	2	生体成分の化学2：糖質の化学			13	2	水と無機物、生活習慣病
4	2	生体成分の化学3：脂質の化学			14・15	4	生化学実験
5	2	核酸の科学					
6	2	酵素の生化学					
7	2	代謝1：糖質代謝			テキスト・参考書 ◎専門基礎分野 人体の構造と機能 2 生化学. 医学書院		
8	2	代謝2：脂質代謝					
9	2	代謝3：アミノ酸・タンパク質代謝			成績評価の方法 ■ 筆記試験 □ 実技試験		
10	2	代謝4：ヌクレオチド代謝					

※1回は90分（2時間）です。※試験は時間に含めます。